思いをつなぐ　いのちをつなぐ

tsunagu

つなぐ

3.11を忘れない
今、わたしたちにできること

創刊号
Vol.1
2013.5

発行
つなげよう
脱原発の輪
上越の会

つなげよう脱原発の輪上越の会
発足1周年記念集会が開催されました
（4月21日　於上越市市民プラザ）

会の発足1周年を記念して『げんぱつを語らう会』が行われました。花冷えのする一日でしたが、多くの方にお越しいただきました。

集会の前には、気軽に足を運んでいただけるよう〝だれでもcafé〟〝プチフリマ〟や〝ぬりえ〟などのコーナーを設け楽しんでいただきました。

集会では、10名のさまざまな立場の方から「げんぱつ・原発」に対する思いをお聞きすることができ、ますます元気を頂きました。

私たちの「脱原発」への思いが決して偏ったものでも、間違ったことでもなく、ふつうに安全に暮らしたいと言う当たり前の気持ちから生まれたものであることを再認識しました。

集会終了後のデモでは約30人の方が、小雨が心配される中、声高らかに脱原発を訴え市内を行進しました。

熱い思いの数々をお聞きすることができました。

ようこそ♪

脱原発のDVDを見て頂きながらお茶やぬりえを楽しんでいただきました。

フリマは掘り出し物がいっぱい!?

肌寒さは熱気で吹き飛ばしました。

つなげよう脱原発の輪・上越の会
Ｑあんど Ａ

Q1 会はどうしてできたの？

福島の原発事故をきっかけに、なんとかして危険な原発を止めなければと言う思いから有志が集まり活動が始まりました。会は「『脱原発』のただ一点でつながること」を目的としており、信条、宗教、支持政党、国籍、立場を問わず、広く多くの方がつながり、脱原発に向けて一緒に考え活動することをめざしています。

Q2 どんなことをしているの？

月１回程度今後の活動について話し合いをしたり、原発について学ぶ勉強会を定期的に行っています。今までの活動としては、署名活動をはじめ、映画会、講演、街頭デモを行ってきました。

Q3 どんなふうに活動しているの？

ひとり一人が自分の自由意思で参加し、できることを無理せずに、互いに協力し合ってやろう♪と事務局はあえて設けずに活動しています。そんな体制で『脱原発』を本当に実現できるの!?とご意見を頂くこともありますが、事務局体制にすると限られた人しか参加できない雰囲気が生まれたり、事務局任せでいいかぁと言うなまけ心が生じやすいので、あくまで基本は自分の気持ち。ゆるくても強くつながる。意見の違いがあっても否定することから始めずに、違いを認め溝を小さくしていく努力をする。そんな気持ちでみんな活動しています。

Q4 脱原発だけが目的なの？

原発の廃炉を求めると共に原発がなくともきちんと成り立つ安心・安全な暮らしと未来をどう実現していったらよいかをみなさんと一緒に考え、実現していきたいと思っています。

Q5 これからの活動は？

県内各地には原発に反対して活動をしている多くの団体があります。互いに連携して世論や行政を動かす大きな力としていくために、当会が呼びかけ団体となり、ひとり一人の脱原発の思いを県知事に届ける『柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉を求める署名』活動を近くスタートすることになりました。ほかに、講演会や映画会などもできる限り行っていきたいと思っています。

≪イベント情報≫

◆福島からの報告＆立体講談
「はだしのゲン」
いわき市出身の女性講談師が福島の現状を講談で訴えます。
・日時：５月１８日(土)
１４：００～１６：００
・場所：リージョンプラザ
・参加費：１，０００円
・問合せ：
上越九条の会
５２２－２８６９(関口さん)

◆「原発」新潟県民投票報告会
映画「フタバから遠く離れて」の上映と国際情報大学教授越智俊夫先生とのフリートーク。
・日時：５月２６日(日)
１３：００～１６：３０
・場所：万代市民会館
・参加費：なし　(カンパ歓迎)
・問合せ：
「みんなで決める会」
０２５－２１１－４８４８

≪募集中≫

◆支援物資・カンパ
・ボランティア募集中

任意団体「高田教区震災支援有志会」は、福島で生活物資を必要としている人たちのための「青空市場」(福島県二本松市)に毎月物資を届けたり、現地で炊き出しなどを行っています。詳しくはお問い合わせください。
連絡先
豊島さん(090-7270-4078)

★会報「つなぐ」を置いて下さるお店や場所を募集しています。
★カンパを募っています。応援よろしくお願いします。
ゆうちょ銀行 11260-13169471
名義・つなげよう脱原発の輪
上越の会

編集後記
会報を手に取って下さるだけで、きっと思いはつながっていると信じて、よりたくさんの方に「つなぐ」が届きますように。(Ｋ)

つなげよう脱原発の輪
上越の会
代表　植木　史将
０９０－４９６２－９６３３

この１年を振り返って

私がこの会を立ち上げた理由　代表　植木史将

この一年、「なぜこのような会を立ち上げられたのですか？」と、よく聞かれました。3.11の福島第１原発の大惨事により、当然のごとく世の中は脱原発に向かうものと私は高をくくっておりました。しかし、半年を過ぎたあたりから脱原発ではない方向に向かいつつあるのを感じました。「何だかこれはおかしいぞ。」と思い、いろいろ調べ始めましたら次々に出てくるお金と利権の問題が・・。そして新聞やテレビでは伝わらない福島の惨状が・・。さらには我が上越は原発からなんと最短で17キロではないですか・・。これはまずい誰かが立ち上がらねば。誰も立ち上がらないなら私が立ち上がろう。そうやってたった一人からのスタートでした。

インターネットで「上越　脱原発」で検索し、ヒットした人に連絡を取る。ヒットした脱原発集会に片っ端から参加する。それらで知り合った人に当会への賛同を呼び掛ける。そうして集まった28名により昨年の４月15日、立上集会が行われました。

と、このように立上の経緯を説明してきました。しかし、「なぜこのような会を立ち上げられたのですか？」の真の答えにはなっていません。がむしゃらに何かに突き動かされるようにして突っ走ってきましたので、後から分かったのですが、いたってシンプルなんです。それは『いのち』のためです。『いのち』が私を突き動かしていたのです。

「人と人の対立」「弱者の排除」が原発を推進してきました。これらをやめることが原発をなくし、いのちを守るために必要なことかと思います。まずは『私』から。

会の歩み・この１年

＜２０１２年＞

４月　「『脱原発』の１点で思いがつながる市民活動」をめざし、会の立ち上げを呼びかけたところ２８名が集まり立ち上げ集会を開催

５月　「なぜ脱原発をするべきなのか」討論会

６月　上越市議会へ「再稼働反対の請願署名」を提出する内容を討議し、署名スタート

７月　くびき野市民活動フェスタで「チェリノブイリハート」上映会と福島からの被災者八島孝文さん講演会(５５名参加)

８月　福島県飯館村酪農家長谷川健一さん講演会(６２名参加)

10月　元刈羽村議武本和幸さん講演会(５４名参加)

11月　全国脱原発運動に呼応して市民デモ行進
（悪天候にも関わらず、かに池～市役所まで７０名参加）
上越市議会へ１８,５９８筆の署名と請願書を提出

12月　上越市議会総務常任委員会にて意見陳述
上越市議会本会議にて同請願について討論・採決の結果、１２対１９で不採択されるも、議員自らの発議による「安心・安全が確保されるまでは再稼働に賛同できない」意見書が提出され２６対５で可決される

＜２０１３年＞

２月～毎月１回勉強会開催

４月　会発足１周年記念集会「げんぱつを語らう会」開催

～今こそ語ろうげんぱつのこと～

「げんぱつを語らう会」にお寄せいただいた
童話作家　杉みき子さんのメッセージをご紹介します
（時間の都合で当日ご紹介できませんでした。お詫び申し上げます。）

ふるさとを失わないために

杉　みき子

大地震の被災者の方たちをお招きしての集まりに、「ふるさと」の歌が歌われる情景をテレビでよく目にします。もちろん、被災者の方を慰め、励ましそうと言う善意からであることは疑いようもないのですが、当のふるさとを離れて暮らしている方々の思いはどうなのだろうかと、いつも気になってしまうのです。

「兎追いしかの山　小ぶな釣りしかの川
夢は今もめぐりし　忘れがたきふるさと・・・」

むかし、この歌がつくられたとき、ふるさとを離れてそのふるさとを懐かしんでいる主人公は、勉学のため、あるいは就職のために、自らの意思でふるさとを離れたものと思われます。だから、その志が果たされたときは、あるいは果たされなくとも、生きることに疲れたときは、山は青きふるさと、水は清きふるさとへ帰っていくことができました。

もし、今回の災害が地震と津波だけだったら、もちろんそれだけでも大変なことではありますけれど、時間とお金を使い、国を挙げての協力でやがてはふるさとを復興し、そこに再び帰り住むこともできたでしょう。

でも今回は、多くの土地でそれが叶わなくなりました。原発の存在がその希望を打ち砕いたのです。放射能に汚染されたふるさとにいつか本当に戻れる日が来るのでしょうか。放射能漏れがいまだに続いて収拾がつかない現状を見ると、暗澹たる思いにかられます。まして、汚染水は、国内にとどまらず、海外の国々の安全まで脅かしているのです。

原発のあるところでは、いつでもまたふるさと喪失の悲劇がくり返されるに違いありません。

原発は作るべきではなかったのです。人間が自らの力で制御できないものは絶対につくるべきではなかったのです。ふるさとを奪われた被災地の方々の苦しみを二度と繰り返さないために、原発はもうやめましょう。

それで不自由が生じるならば、皆で力を合わせてなんとか乗り越えていきましょう。人間のいのちの根っこ、ふるさとを失わないために、子どもたちの未来のために、山は青きふるさと、水は清きふるさとを取り戻すために。